

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場会社名 株式会社スタートトゥデイ 上場取引所 東
 コード番号 3092 URL <http://www.starttoday.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 前澤友作
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 柳澤孝旨 (TEL) 043-213-5171
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 平成25年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	17,467	13.6	5,441	88.3	5,454	88.4	3,467	97.3
25年3月期第2四半期	15,378	11.7	2,890	△14.2	2,894	△13.7	1,757	△16.5

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 3,552百万円(113.5%) 25年3月期第2四半期 1,663百万円(△20.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	32.41	32.37
25年3月期第2四半期	16.07	16.05

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	27,128	15,908	57.1
25年3月期	23,873	12,773	52.0

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 15,501百万円 25年3月期 12,412百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
26年3月期	—	10.00			
26年3月期(予想)			—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,800	5.0	10,320	21.0	10,320	20.4	6,320	17.9	59.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	109,885,500株	25年3月期	109,885,500株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	2,685,000株	25年3月期	3,000,000株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	106,965,962株	25年3月期2Q	109,370,191株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

●この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.8「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

●当社は以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料、動画については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

●平成25年10月31日(木)・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	9
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	9
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	9
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	9
3. 四半期連結財務諸表	10
(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	前年同期比
商品取扱高	40,803 (100.0%)	49,572 (100.0%)	+21.5%
売上高	15,378 (37.7%)	17,467 (35.2%)	+13.6%
営業利益	2,890 (7.1%)	5,441 (11.0%)	+88.3%
経常利益	2,894 (7.1%)	5,454 (11.0%)	+88.4%
四半期純利益	1,757 (4.3%)	3,467 (7.0%)	+97.3%

() 内は商品取扱高に対する割合です。

当社グループは「世界中をカッコよく、世界中に笑顔を。」という企業理念のもと、日本最大級のファッションECサイト「ZOZOTOWN」の運営を中心に事業活動を行っております。当社グループが軸足を置く衣料品・アクセサリ市場は、輸出環境の好転や景況感の持ち直しによる消費者マインドの改善を受け、底堅く推移いたしました。ファッションEC市場においても、ブランド及びユーザーとファッションECとの親和性が高まり、ファッションECでの消費活動が一般化しつつあることから、引き続き高い成長を実現させております。

このような環境下、当第2四半期連結累計期間における当社グループは、「真面目」「感動」「カッコいい」をキーワードに、ユーザーとブランド双方にとってより一層魅力的なサイト作りに邁進し続け、ファッションEC拡大にとって必要不可欠な「年間利用者数の拡大」「取扱いブランドの拡大と既存ブランドとの関係強化」を両輪として、商品取扱高の拡大に注力してまいりました。

9月25日には、「ZOZOTOWN」に続く新モール「LA B00」を開設いたしました。10代～20代の女性に人気のアパレルブランドに商品ラインアップを絞り込み、ターゲット層の嗜好にフォーカスしたサイトデザイン、コンテンツ、サービス、PR等を可能にしました。「ZOZOTOWN」とは違った魅力を生み出し、新たな顧客層の開拓に積極的に取り組んでおります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は49,572百万円（前年同期比21.5%増）、売上高は17,467百万円（前年同期比13.6%増）となりました。

利益面においては、全商品送料無料化（平成24年11月開始）による運賃収入の減少により、売上総利益率（対商品取扱高）が前年同期比1.0ポイント低下いたしました。しかしながら、プロモーション戦略を抜本的に見直し、プロモーション関連費率（対商品取扱高）を前年同期比4.3ポイント低下させたことや、リアルイベント「ZOZOCOLLE」を当期は開催しなかったこと等により、営業利益率（対商品取扱高）は前年同期比3.9ポイント上昇し11.0%となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益は5,441百万円（前年同期比88.3%増）、経常利益は5,454百万円（前年同期比88.4%増）、四半期純利益は3,467百万円（前年同期比97.3%増）となりました。

当第2四半期連結会計期間においては、インスタントECサービスを提供する株式会社ブラケット（以下、ブラケットという）を株式交換により完全子会社といたしました。

ブラケットは「誰でも簡単に数分でオンラインストアを作ることができる」をコンセプトにしたインスタントECサービス「STORES.jp」を提供しており、平成25年9月末時点で5万店以上のオンラインストアが開設されております。「STORES.jp」で開設されているオンラインストアの約70%がファッショ

ンカテゴリーのストアであることに加え、出店者様の販売支援・物流サービスに対する需要も高まっていること等から、当社とブラケットのシステム基盤やサービス体制を連携させることが更なる拡大に結び付くと考え、完全子会社化に至りました。今後は、スタートトゥデイの手掛けるモール事業、自社EC支援事業及び新規サービス「WEAR」と、ブラケットの手掛ける「STORES.jp」の相互連携に取り組むことでシナジー創出を図っていく所存です。加えて、今回の取り組みは、スタートトゥデイにとっては、「新しい分野への進出のきっかけ」となり、ブラケットにとっては「STORES.jpに付随する広範囲に及ぶサービス展開のきっかけ」となることから、中長期的にも重要な提携になると考えております。

さらに、平成25年6月にティザーサイトを開設した新規サービス「WEAR」を、平成25年10月31日に開始いたしました。

「WEAR」は、「WEAR FOR CONNECTION（世界を服でつなげよう）」をテーマに、バーコードスキャン機能を利用した新しいショッピング体験や、アイテム情報と連携したコーディネート画像を提供することで、アパレル業界の更なる活性化を目指すファッション特化型のサービスとなっています。同サービスが提供する主な機能には、コーディネート検索ページ、コーディネート詳細ページ、ショップページ、バーコードスキャン画面、マイクロゼット機能があります。ユーザー、ブランドにとっての利用価値として以下のようなことがあげられます。

<ユーザーにとっての価値>

- ・ 憧れの著名人（WEARISTA）やお気に入りのショップスタッフ、一般ユーザーが投稿するコーディネートを検索・閲覧することができる。
- ・ コーディネート画像には投稿者の属性情報やアイテム情報、独自のタグ情報が登録されているため、様々な検索条件からコーディネート情報を検索することができる。
- ・ 店頭で商品タグに印字されているバーコードを読み取ることで、商品情報やその商品を使ったコーディネート画像にその場でアクセスすることができる。
- ・ スキャンした商品の履歴情報をアプリ内に保存し管理することで、マイクロゼット内のアイテム情報と連携することができる。
- ・ 購入を悩んだ商品について友達からアドバイスをもらったり、帰宅してからECサイトを通じて購入することができる。
- ・ マイクロゼットに既に持っているアイテムや新たに購入したアイテムを保存することで、日々のコーディネートを記録して整理することができる。

<ブランドにとっての価値>

- ・ 各店舗のショップスタッフがコーディネート画像を投稿することで、ブランドイメージの訴求、新作商品情報の発信が可能となり、ユーザーへの来店促進効果が期待できる。
- ・ バーコードスキャン機能を利用することで、具体的なコーディネート提案が可能となるため、ユーザーの購買意欲を喚起するきっかけとなりうる。
- ・ 購入を検討しつつ退店したユーザーの販売機会損失の低減が期待できる。
- ・ SNS機能を活用することで、ショップスタッフとユーザーがファッション情報を共有することができる。

以上のような価値を創造することにより、ファッションを楽しむ人が増え、ユーザーとブランド等との繋がりが拡大していくことを期待しております。

当社グループは前連結会計年度において、報告セグメントを変更しており、単一セグメントとなったため、セグメント別の記載を省略しております。

なお、単一セグメント内の各事業別の業績は以下のとおりです。新サイト「LA B00」の運営開始に伴い、第1四半期連結累計期間まで「ZOZO事業」として開示していた事業につきましては、第2四半期連結累計期間より「ZOZOTOWN」と「LA B00」を一体とした「モール事業」として記載することといたしました。

前年同期との比較は前年同期の数値を変更後の区分に組み替えて行っております。

事業別	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)			当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)			取扱高 前年同期比 (%)	売上高 前年同期比 (%)
	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)		
モール事業								
(買取ショップ)	3,768	9.2	3,768	4,183	8.5	4,183	+11.0	+11.0
(受託ショップ)	32,483	79.6	8,894	38,978	78.6	10,780	+20.0	+21.2
小計	36,251	88.8	12,662	43,161	87.1	14,963	+19.1	+18.2
自社EC支援事業	4,551	11.2	1,205	6,411	12.9	1,700	+40.9	+41.1
その他	—	—	1,510	—	—	803	—	-46.8
合計	40,803	100.0	15,378	49,572	100.0	17,467	+21.5	+13.6

① モール事業

モール事業は、当社が各ブランドからファッション商材を仕入れ、自社在庫を持ちながら販売を行う「買取ショップ事業」と、当社が各ブランドの商品を受託在庫として預かり、受託販売を行う「受託ショップ事業」の2つの事業形態で構成されております。一方、運営するサイトにつきましては、ユーザー特性及びブランド特性に応じ「ZOZOTOWN」と「LA B00」の2サイトを運営しております。

当第2四半期連結累計期間においては、前期まで積極的に行ってきた様々なプロモーション戦略に関して抜本的に見直しを行い、原点回帰をキーワードに魅力的なサイト作り及びプロモーション戦略に注力してまいりました。

その結果、平成25年9月時点の年間購入者数（平成24年10月～平成25年9月）は2,802,245人（前第2四半期末比568,176人増）となりました。

さらに、ファッションECサイトの運営において購入者数と同じく重要な要素である商品供給力についても、積極的な強化を行ってまいりました。当第2四半期連結会計期間においては、「BEAUTY&YOUTH UNITED ARROWS」「LANVIN」「niko and...」「PEACH JOHN」「EGOIST」等49ショップが新規出店致しました。平成25年9月末現在の総ショップ数は「ZOZOTOWN」「LA B00」と合わせて556ショップとなり、一層幅広い顧客層のニーズに応え得るブランドラインアップを実現することが出来ました。

以上の結果、モール事業の商品取扱高は43,161百万円（前年同期比19.1%増）、売上高は14,963百万円（前年同期比18.2%増）となりました。

買取ショップ事業及び受託ショップ事業の実績は以下のとおりです。

i. 買取ショップ事業

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は4,183百万円（前年同期比11.0%増）、商品取扱高に占める割合は8.5%となりました。売上高は商品取扱高と同額の4,183百万円（前年同期比11.0%増）となりました。平成25年9月末現在、買取ショップ事業では39ショップ（平成25年3月末40ショップ）を運営しております。

ii. 受託ショップ事業

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は38,978百万円（前年同期比20.0%増）、商品取扱高に占める割合は78.6%となりました。売上高（受託販売手数料）は10,780百万円（前年同期比21.2%増）となりました。平成25年9月末現在、受託ショップ事業では517ショップ（平成25年3月末452ショップ）を運営しております。

② 自社EC支援事業

自社EC支援事業では、ブランドの自社ECサイトを受託・運営しております。当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は6,411百万円（前年同期比40.9%増）、商品取扱高に占める割合は12.9%となりました。売上高（受託販売手数料）は1,700百万円（前年同期比41.1%増）となりました。当第2四半期連結会計期間において、新たに「WAVE INTERNATIONAL ONLINE STORE」の構築及び運営受託を開始したことに加え、ファッションECに対するユーザーの認知度が高まってきたことを受け、各ブランドが自社ECへの取り組み姿勢を一層積極化させたことが増収の背景となっております。平成25年9月末現在、自社EC支援事業では27サイトの構築及び運営を受託しております。

③ その他

その他にはEC事業に付随した事業（代引手数料収入、テナント出店の際の初期出店料など）が計上されております。

当第2四半期連結累計期間におけるその他売上高は803百万円（前年同期比46.8%減）となりました。平成24年11月より全商品送料無料化を実施したことに伴い、送料収入が減少したことが減収の主要因となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ340百万円増加（前連結会計年度末比1.6%増）し、20,996百万円となりました。主な増減要因としては、現金及び預金の増加575百万円、商品の減少329百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2,914百万円増加（前連結会計年度末比90.6%増）し、6,131百万円となりました。主な増減要因としては、平成25年10月に稼働を予定している物流施設への設備投資によるものであります。

以上の結果、総資産は前連結会計年度末に比べて13.6%増加し、27,128百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ172百万円減少（前連結会計年度末比1.7%減）し、10,253百万円となりました。主な増減要因としては、受託販売預り金の減少167百万円、買掛金の減少203百万円、ポイント引当金の減少260百万円、未払法人税等の増加484百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ292百万円増加（前連結会計年度末比43.4%増）し、965百万円となりました。主な増減要因としては、資産除去債務の増加234百万円、退職給付引当金の増加57百万円によるものであります。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて1.1%増加し11,219百万円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ3,135百万円増加（前連結会計年度末比24.5%増）し、15,908百万円となりました。主な増減要因としては、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加3,467百万円、剰余金の配当による減少1,068百万円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末から575百万円増加し、12,613百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は3,517百万円となりました。これは税金等調整前四半期純利益5,440百万円の計上に加え、売上債権の減少額109百万円、たな卸資産の減少額330百万円等の増加額あったこと、一方主な減少要因としてはポイント引当金の減少額260百万円、仕入債務の減少額238百万円及び法人税等の支払額1,762百万円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は2,065百万円となりました。これは有形固定資産の取得による支出1,581百万円、敷金の差入による支出392百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は1,067百万円となりました。これは、配当の支払いがあったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年4月25日に発表いたしました平成26年3月期の通期連結業績予想数値に変更はありません。

平成26年3月期の連結業績予想につきましては、商品取扱高108,400百万円（前期実績比13.0%増）、売上高36,800百万円（同5.0%増）、営業利益10,320百万円（前期実績比21.0%増）、経常利益10,320百万円（前期実績比20.4%増）、当期純利益6,320百万円（前期実績比17.9%増）を見込んでおります。

平成24年末の政権交代以降、日本政府や日本銀行の積極的な景気対策が功を奏していることもあり、日本経済の先行きには明るさが増してきた感があります。しかしながら、中長期的には日本の人口減少や少子高齢化が日本経済に与える影響、消費者ニーズの多様化など、短期的には円安によって製造コストへの上昇圧力が高まっていること、消費税増税による消費の落ち込み懸念などファッション業界には多くの課題が残されており、楽観視できるような状況にはないと受け止めております。

そのような状況の中、当社グループでは「真面目」「感動」「カッコいい」をキーワードに、ユーザーとブランド双方にとってより一層魅力的なサイト作りに邁進し続け、ファッションEC拡大にとって必要不可欠な「年間利用者数の拡大」「取扱いブランドの拡大と既存ブランドとの関係強化」を両輪として、取扱高のさらなる拡大を目指します。

一方で、物流及びシステムのインフラに関しましても、これまでどおり逐次増強を行ってまいります。平成25年10月には新たな物流拠点が稼働いたしました。これにより当社が運営する物流拠点は2ヶ所となり、年間商品取扱高3,000～4,000億円に耐えうる物流機能を確立することができました。物流サービスの観点からは、早い段階で翌日配送（地域によっては即日配送）を実現させるべく機能改善を進めております。

新物流拠点の稼働に伴い、下期以降固定費負担が増加いたしますが、商品取扱高に対する営業利益率の向上を意識し、効果的なプロモーションや効率的なフルフィルメントの実現を通じて、前期を上回る収益性を達成してまいります。

なお、現段階で平成26年3月期に行う予定の新プロモーション等は非常に流動的であり、効果及び費用を論理的に算定することが困難なため、連結業績予想には当該施策の影響を織り込まず、自律成長を前提として作成しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,037,622	12,613,430
売掛金	6,534,440	6,505,366
商品	1,276,948	947,227
その他	806,792	930,428
流動資産合計	20,655,805	20,996,453
固定資産		
有形固定資産	1,538,392	3,201,879
無形固定資産		
のれん	490,270	1,092,858
その他	235,667	250,993
無形固定資産合計	725,938	1,343,851
投資その他の資産	953,014	1,585,830
固定資産合計	3,217,345	6,131,562
資産合計	23,873,150	27,128,015
負債の部		
流動負債		
買掛金	650,903	447,506
受託販売預り金	5,444,023	5,276,426
未払法人税等	1,791,504	2,276,165
賞与引当金	169,549	208,790
ポイント引当金	720,840	460,021
返品調整引当金	27,404	40,062
事業整理損失引当金	42,992	12,416
その他	1,579,259	1,532,510
流動負債合計	10,426,477	10,253,900
固定負債		
退職給付引当金	442,412	499,785
資産除去債務	116,956	351,816
その他	114,101	113,944
固定負債合計	673,469	965,545
負債合計	11,099,947	11,219,446
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,359,665	1,359,665
資本剰余金	1,327,850	1,595,223
利益剰余金	13,358,951	15,757,291
自己株式	△3,660,588	△3,276,227
株主資本合計	12,385,878	15,435,953
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	26,981	65,068
その他の包括利益累計額合計	26,981	65,068
新株予約権	2,561	2,561
少数株主持分	357,782	404,985
純資産合計	12,773,203	15,908,569
負債純資産合計	23,873,150	27,128,015

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	15,378,755	17,467,908
売上原価	3,064,008	3,016,654
売上総利益	12,314,747	14,451,254
返品調整引当金戻入額	—	27,404
返品調整引当金繰入額	25,362	40,062
差引売上総利益	12,289,384	14,438,596
販売費及び一般管理費	9,399,327	8,996,714
営業利益	2,890,056	5,441,881
営業外収益		
受取利息	4,831	3,025
為替差益	—	4,812
その他	5,126	5,264
営業外収益合計	9,957	13,102
営業外費用		
為替差損	5,142	—
営業外費用合計	5,142	—
経常利益	2,894,872	5,454,984
特別利益		
固定資産売却益	—	4,721
特別利益合計	—	4,721
特別損失		
固定資産除売却損	9,797	4,272
事業整理損失	—	15,080
特別損失合計	9,797	19,352
税金等調整前四半期純利益	2,885,075	5,440,353
法人税、住民税及び事業税	1,157,354	2,017,613
法人税等調整額	64,083	△37,328
法人税等合計	1,221,437	1,980,284
少数株主損益調整前四半期純利益	1,663,637	3,460,068
少数株主損失(△)	△93,842	△7,127
四半期純利益	1,757,480	3,467,195

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,663,637	3,460,068
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,799	—
為替換算調整勘定	△1,766	92,417
その他の包括利益合計	32	92,417
四半期包括利益	1,663,670	3,552,486
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,758,348	3,505,283
少数株主に係る四半期包括利益	△94,677	47,203

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,885,075	5,440,353
減価償却費	146,534	167,098
のれん償却額	75,426	86,918
固定資産除売却損益(△は益)	9,797	△449
賞与引当金の増減額(△は減少)	20,177	38,629
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△27,924	△260,818
返品調整引当金の増減額(△は減少)	25,362	12,657
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	—	△35,421
退職給付引当金の増減額(△は減少)	38,262	57,373
受取利息及び受取配当金	△4,831	△3,025
為替差損益(△は益)	5,142	△5,973
売上債権の増減額(△は増加)	△409,149	109,813
たな卸資産の増減額(△は増加)	△75,345	330,098
仕入債務の増減額(△は減少)	95,027	△238,705
受託販売預り金の増減額(△は減少)	243,076	△167,597
未払金の増減額(△は減少)	409,343	△101,078
未払消費税等の増減額(△は減少)	△168,499	△13,553
その他	△3,938	△139,133
小計	3,263,536	5,277,184
利息及び配当金の受取額	4,996	3,176
法人税等の支払額	△2,166,018	△1,762,478
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,102,514	3,517,882
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△105,497	△1,581,616
無形固定資産の取得による支出	△34,291	△61,851
敷金の差入による支出	△214,725	△392,095
その他	810	△29,648
投資活動によるキャッシュ・フロー	△353,703	△2,065,212
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	108	—
自己株式の取得による支出	△3,660,588	—
配当金の支払額	△1,642,165	△1,067,722
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,302,646	△1,067,722
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6,258	129,774
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,560,094	514,723
現金及び現金同等物の期首残高	13,888,792	12,037,622
株式交換等に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	61,084
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,328,698	12,613,430

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。